

粗飼料分析結果報告書

支所名	
農協名	
組合員名	
粗飼料 生産年	

注:CP値にはVBN（揮発性塩基態窒素）由来CP値（1.09%）は含まれていません。

○基本分析結果

分析成分		説明 ※乾物中成分でみます
水分	%	飼料中の水分含量。水分80%以上になると酪酸発酵しやすい。
乾物（DM）	%	水分を除いた飼料成分の総和（100%-水分%）
pH		サイレージ品質判定の目安 目標:pH4.2以下
粗蛋白質（CP）	%	飼料中の粗蛋白含量。放牧草やマメ科に多い。
溶解性蛋白質（SIP）	%	第1胃内で早く分解される蛋白質。高水分で高くなる傾向。
//	CP %	CP中のSIPの割合
酸性デタージェント不溶蛋白質（ADICP(BP)）	%	ADFに付着している蛋白質。消化器官では消化されず、糞中に排出される。
中性デタージェント不溶蛋白質(NDICP)	%	NDFに付着している蛋白質。ゆっくりと消化・吸収される。
酸性デタージェント不溶リグニン（ADL）	%	繊維の中で最も消化されにくい部分。刈り遅れるほど多くなる。
正味エネルギー ※1（NEL（3X））	Mcal/kg	産乳や維持・妊娠・成長のための正味エネルギー
可消化養分総量 ※2（TDN（1X））	%	家畜が消化利用できる養分の総量（エネルギー）。目標：61%以上
細胞内容物質（OCC）	%	細胞の中に含まれる養分でOCWを除いたもの（糖・デンプン・蛋白質・脂肪等）。消化性、栄養価が高い。早刈りは多くなる。
細胞壁物質（OCW）	%	飼料中の総繊維（≒NDF）。刈り遅れると多くなる（目安:66%以下）。
高消化性繊維（Oa）	%	OCW（総繊維）の内、消化されやすい部分（目安:6%以上）
低消化性繊維（Ob）	%	OCW（総繊維）の内、消化されにくい部分（目安:60%以下）
48時間NDF消化率（NDFD48h）	%	48時間で消化されるNDFの割合
酸性デタージェント繊維（ADF）	%	セルロース+リグニン。消化性に影響（≒Ob）（目安:39%以下）
中性デタージェント繊維（NDF）	%	飼料中の総繊維（≒OCW）（目安：65%以下）
非繊維性炭水化物（NFC）	%	OCCの中の炭水化物。刈り遅れると少なくなる。
水溶性炭水化物（WSC）	%	牧草に貯えられている水溶性炭水化物（単糖類、二糖類、シヨ糖類）
デンプン（STA）	%	コーンサイレージでは登熟の目安となる（黄熟期で30%以上）
粗脂肪（EE）	%	中性脂肪など。エネルギー価が高い。刈り遅れると少なくなる。
カルシウム（Ca）	%	骨の構成、筋肉の収縮、細胞内の情報伝達などに必要。
りん（P）	%	骨、核酸などを構成する成分のひとつ。
マグネシウム（Mg）	%	体内での酵素の活性化、神経伝達、骨の形成などの役割。
カリウム（K）	%	陽イオンのミネラル。DCAD値を上げる成分、乾乳牛による過剰摂取は乳熱などのリスクが高まる。
当量比		K / (Ca+Mg) 。ミネラルのバランスをみる。2.2以上は注意。

受付年月日	分析所受付番号			
分析料金	基本分析	選択分析1	選択分析2	選択分析3
報告年月日	生産者サンプル番号			
粗飼料名	調製形態	刈取番草	生育ステージ	

分析成分		説明 ※乾物中成分でみます
有効蛋白質（AP）	%	粗蛋白質の中で、乳牛が体内で吸収、利用可能な蛋白質
粗繊維（Cfib）	%	不消化を表すが、一部溶脱する部分も含む
粗灰分（CAsh）	%	ミネラル、微量元素。土などの異物混入により高くなる（目安8%以下）
30時間NDF消化率（NDFD30h）	NDF %	NDFの内、30時間で消化されるNDFの割合
120時間NDF消化率（NDFD120h）	NDF %	NDFの内、120時間（5日間）で消化されるNDFの割合
240時間NDF消化率（NDFD240h）	NDF %	NDFの内、240時間（10日間）で消化されるNDFの割合
評価成分		
採食可能量（BW600kg換算）	kg	体重600kgの乳牛が採食可能な乾物の量。NDFによって変動する。
相対的粗飼料価（RFV）		流通粗飼料（マメ科）の消化率と採食性を合わせた評価法。一般に100以上が良品質

○選択分析1結果

分析成分		説明 ※目安は現物中のみ
乳酸（Lac）	%	乳酸菌の代謝活動で生成される酸。ギ酸を添加したサイレージでは少ない。
酢酸（Ace）	%	好気性発酵で生成される酸。高いと二次発酵のおそれ。
酪酸（But）	%	酪酸菌の代謝活動で生成される酸。良質な発酵だと0.1%未満である。
アンモニア態窒素/全窒素（NH3-N/TN）	%	酪酸発酵等により蛋白質が分解され生成される。目安:10%以下

○選択分析2結果

分析成分		説明 ※乾物中成分でみます
硝酸態窒素（NO3-N）	%	堆肥や窒素過多などで高い値となる。植物の根元付近に多い。目安:0.2%以下

○選択分析3結果

分析成分		説明 ※乾物中成分でみます
ナトリウム（Na）	%	陽イオンのミネラル。過剰摂取は血液のpHを高める。DCAD値(※)を上げる成分
塩素（Cl）	%	陰イオンのミネラル。血液のpHを下げる。DCAD値を下げる成分。
イオウ（S）	%	陰イオンのミネラル。血液のpHを下げる。DCAD値を下げる成分。

※)DCAD値：陽イオン、陰イオンの差。DCAD値が高いと乳熱などの要因となる。